

ともえ



繁栄を
あなたと育てる
商工会議所



平塚常次郎顕彰像

No. 131

函館商工会議所報
1992——6月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

Lhくみカードローン

20万円から200万円まで

使い方自由

らくらく返済

担保・保証人不要

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。



函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

●ともえ 6月号(通巻131号) 目次

今月の表紙／視点……………255
 会議所の動き……………1

- ・本所共済事業推進功労表彰式開催
- ・高速交通体系整備へ関係団体活動活発化
- ・札幌丘珠空港整備へ協議会が発足
- ・92はこだて企業ガイドブック発刊
- ・道教大函館分校、分離独立への道開く
- ・全国テクノポリスシンポジウム開催
- ・P・Rコーナー「外国人労働者の適正な雇い入れに協力を」

調査レポート……………65
 6

- ・「地域の景気」金融経済概況 四月
- ・市内第一種大規模小売店舗売上高 四月
- ・函館地域における景気動向 平成三年年度 第四四半期

誌上講演……………125
 13

- ・経営者のガン予防 (3)
- ・人の使い方 読者推測委員会
- ・共済推進コーナー
- ・ティータム 「昆布ダシの暮らしのワンポイント 上手なとり方」
- ・さわやか君

有段を目標にして 詰碁・詰将棋

アドバイスコナー……………165
 17

- ・賃金・諸手当の決め方と考え方 (3)
- ・Q & A みんなの相談室 税務相談・労務相談

ご案内……………205
 21

- ・お盆資金準備はお早め!
- ・国民金融公庫 貸付制度のご案内
- ・新会員紹介
- ・92ミニ経済情報はこだて発刊

告知板……………22

- ・検定試験のお知らせ
- ・刊行物のご案内
- ・会員サービス事業新規契約施設のご案内
- ・ご利用下さい!本所の個別専門相談

◇今月の表紙

平塚常次郎顕彰像

函館市民会館の前にある噴水公園は、北洋漁業の先駆者、平塚常次郎(名警市民)の顕彰を兼ねて作ったもので、期成会から市へ寄付の形をとった。

平塚常次郎は、明治39年、沿海州黒竜江南端の漁舎で意気投合した提漕六と翌40年に提商会を設立し、自ら帆船宝寿丸に乗り組み、新潟からカムチャッカ漁場に出漁した。これをきっかけに、カムチャッカの鮭鱒漁場を買い、さらには現地に缶詰工場を建てるなど事業を拡張していった。提商会は、北洋漁業の統一経営こそが国策であると判断、企業合同を図り日魯漁業協設立に至った。

平塚常次郎は、日魯漁業協の社長・会長を歴任した他、北海道出身の大臣第一号(運輸大臣)としても活躍、勲一等瑞宝章を受けた。

視点

野山の雪も消え、目にも鮮やかな緑の濃い季節を迎えました。先月は大陸からの寒気団が押し寄せ、快晴の日もありましたが風は冷く、初夏となった今月は、例年なみの梅雨の少ないすがすがしい気候であって欲しいものです。

今年は、市制施行七十周年の年ということで、沢山の行事が予定されていますが、その中でも国際交流については、かつてなかった程の交流予定があります。

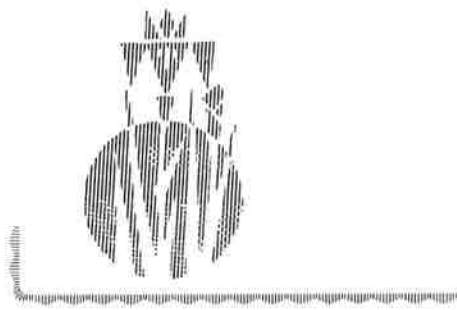
即ち今月には、ハリファックス市、ウラジオストク市、そしてレークマコーリの三市が参加して、国際姉妹、友好都市パネル展が、市民ホールで開かれるのを始め、月末には姉妹都市提携十周年記念訪問団がハリファックス市を訪問、七月二日のウラジオストク市の開放記念式典には、市議

会の代表とともに、本所若林会頭も出席の予定です。市では七月二十八日ウラジオストク市、同三十一日には、オーストラリアのレークマコーリ市と、また、八月三日には、シンガポール政府観光局と函館観光協会が、それぞれ函館で姉妹提携を調印する予定となっています。

この間七月三十日には、海外七都市の代表を迎えて、国際友好都市サミットが開催されるのを始め、八月一日には、函館青年会議所招請のウラジオストク市の青少年百五十名が来函、交流を深めることになっているほか、八月十八日から函館の物産と観光展がハワイで開催されます。

このような中で、来函される外国の方々とは、ぜひ心のこもった暖かい交流をお願いしたいものです。

会 議 所 の 動 き



▲感謝状を受ける推進員

本所共済事業 推進功労表彰式開催

本所四共済事業の平成三年度加入者募集において、特に功績のあった受託生命保険会社六社と挙業者二十七名の表彰式が、去る五月七日、函館ハービービューホテルにおいて挙行されました。

本所では、会員事業所の福利厚生対策の一助とするべく、昭和四十七年に生命共済制度を発足させ、その後、特定退職金共済制度、経営者年金共済制度、年金共済制度と順次共済事業の充実を図ってまいりましたが、特に本年は生命共済事業発足から二十年目の記念す

べき年を迎えております。

表彰式では、受託生命保険会社十二社の各支社長、担当者出席のもとで、本所高野担当副会頭より受彰者それぞれに感謝状と記念品が贈られた後、同副会頭から、お祝いとねぎらいの言葉があり、つづいて「共済事業の円滑な推進と安定的運用を図るためには、より多くの方々に加わっていただくことが重要である。今後とも、各共済制度加入拡大推進のため、皆様方の特段のご協力をお願いしたい」との要望も含めて挨拶がなされました。

当日の表彰者は、次の通りです。

◎生命共済事業功労者

△団体の部▽

日本団体生命保険(株)函館支社
富国生命保険(相)函館支社

△個人の部▽

高野和彦、大野ムツ(以上大同生命)、相原敬蔵(東邦生命)、野田辰男、佐藤毅、辰宮清春、

小杉裕子(以上日本団体生命)
秋元彰(富国生命)、清水専次
(三井生命)

◎特定退職金共済事業功労者

△団体の部▽

大同生命保険(相)函館支社
日本団体生命保険(株)函館支社
三井生命保険(相)函館支社

住友生命保険(相)函館支社

△個人の部▽

斉藤マサ(住友生命)、渋谷貞子、中野郁郎、亀井慎一郎、菊谷知子、平沼宗雄、斉藤英一(以上大同生命)、田原玉(千代田生命)、高橋裕美子、玉山勸子(以上日本団体生命)、柚理子(富国生命)、浜田俊雄(三井生命)

◎年金共済事業功労者

△団体の部▽

朝日生命保険(相)函館支社
富国生命保険(相)函館支社

△個人の部▽

新川キエ子、石塚悦子(以上朝日生命)、今豊子、名越陽子(以上千代田生命)、小崎節子、蛸子文子(以上富国生命)

敬称略

高速交通体系整備へ 関係団体の活動活発化

北海道縦貫自動車道建設促進道
南地方期成会（会長 木戸浦隆一
函館市長）並びに北海道新幹線建
設促進道南地方期成会（会長 若
林利次本所会頭）は、去る五月十
一日、函館国際ホテルで平成四年
度総会を相次いで開催し、本年度
の事業計画と収支予算等を決定し
ました。

まず、午前中に行われた縦貫自
動車道建設促進道南地方期成会の
総会では、本年度の重点事業とし
て施行命令の出ている長万部～虻
田間の早期完成及び整備計画区間
である七飯～長万部間の早期着工
並びに函館側からの早期着工を強
力に要望陳情することを決めまし
た。

引続き行われた新幹線建設促進
道南地方期成会総会では、提出議
案が全て原案通り議決されました
が、整備五新幹線に関する昭和六
十三年八月の政府・自民党の申し
合わせが五年後の平成五年に見直

すことになっており、本年は一年
後に迫ったこの見直しに向って、
北海道新幹線の着工実現のため、
最大の努力をつくさなければなら
ない正に正念場の年です。

当期成会としては、このような
重要な時期であることを深く認識
し、今まで以上の強力な運動を展
開していくと共に、「東北新幹線
の青森までの早期建設と、開業時
における当面函館までの同時開業」
を旨とし、環境アセスメントの実
施などを含め、具体的な成果が得
られるよう、全道規模の総決起大
会を本年夏頃に開催することを決
定しました。

札幌丘珠空港整備へ 協議会が発足

札幌丘珠空港整備促進協議会の
設立総会が、去る五月十一日、北
海道経済センターで開催されまし
た。

同協議会は、丘珠空港と航空路

線のある、本所を含む道内六商工
会議所と北海道商工会議所連合会、
北海道商工会連合会及び道内商工
会連合会六支部の経済十四団体が
構成機関となり、同空港の整備を
促進することにより道内地方航空
網を充実し、本道地域経済の活性
化に寄与することを目的に設立さ
れました。

総会では、予算や役員などを決
定、会長には、北海道商工会議所
連合会の鈴木会頭が選任されまし
た。総会終了後、北海道の鈴木副
知事、そして札幌市の桂市長に対
して第一回目の陳情を行いました。

同空港は、札幌市内に位置し、
利便性が非常に高く、道内の地方
航空路線網の中心として、重要な
役割を果たしています。しかし、
現在同空港に就航しているYS11
型機は、近く退役の見通しにあり、
一刻も早く後継機種に対応できる
空港に整備していく必要があります。

こうしたことから、同協議会で
は、今後も札幌市を中心に関係機
関へ積極的な陳情を行っていくこ
とにしています。

'92はこたて企業 ガイドブック発刊

本所では、求人・求職側の相互
理解を深める一助にさせていただく
ため、また地元就職志向の学生・
生徒等に地元の企業情報を提供す
る「'92企業ガイドブック」を、こ
の程発刊し、渡島・松山両管内は
もとより、全道及び青森市などの
高校・大学等へ配布しました。

最近の景況は、なお減速傾向に
ありますが、労働需給については、
その影響から若干の後退がみら
れるものの、長期的展望のもとで
は厳しい方向にあり、当地域にお
いても、今後とも求人難対策を強
化して行く必要があります。

新卒に対する求人については、
各企業において、本年もできるだ
け早めにやっていたくともにも、
企業ガイドブック
などを通しての企
業のPRにも努力
し、積極的に売り
込むことが大切で
す。



道教大函館分校 分離独立への道開ける

去る五月二十九日、国立函館大学誘致促進期成会の平成四年度総会が、ホテルアカシヤにおいて開催されました。この総会で、かねてより分離独立の意向を示していた北海道教育大学函館分校に対して、道教大として、同分校の方針を推進する方向づけがなされたとの報告が行われました。

国立函館大学の誘致運動は、同期成会を中心に、これまで文部省等国に対する要望活動とともに、道教大全体の中で函館分校独立についての学内コンセンサスを得る、



▲市役所前に設置された立看板

という方針が進められてきましたが、学内コンセンサスが得られたことにより、函館分校独立への道が開けたといえます。

今後は、文部省に対して、この問題に対する地元の四十年にもわたる長い、そして熱い要望を伝え、実現に向けて努力していかねばな

全国テクノポリス シンポジウム開催

北海道で始めて開催の全国テクノポリスシンポジウム(第七回)は、去る五月二十八日と二十九日、国際ホテルで開催されました。

五月二十八日は、全国テクノポリスパネル展と、北海道テクノネットワーク圏域企業ハイテク展が、また、二十九日には、「未来を切り拓く活力ある地域創造への挑戦、知恵と勇気と熱き心で」をテーマに、テクノポリス建設促進連絡協議会顧問会・テクノポリス建設促

りませんが、このためには、いち早く設置した立看板や署名活動などで住民意識の高揚を図り、地元が一体となった陳情活動を展開していくとともに、さらに受け皿としてのキャンパス用地の確保なども急務となります。

本所においても、国立函館大学の誘致は最重要課題の一つとして今後とも関係団体と連携を取り、積極的に運動を展開していく予定です。

進連絡協議会の主催により、パネルディスカッションが開催されました。

このシンポジウムは、二十一世紀に向けて、テクノポリス指定地域の地域経済における産業構造の高度化や、地域社会の在り方について検討することを目的に開催されたものです。

会議では、まず、「これからの日本経済」と題して、国際文化研究センターの飯田教授から「脱ア



▲活発な意見が交換されたパネルディスカッション

メリカン・ライフスタイルと、それに伴う産業構造の変化」についての基調講演がなされました。

その後、(社)北海道未来総合研究所の原氏をコーディネーターとして、講師の飯田氏、横路北海道知事、川田日本化学飼料㈱取締役社長(本所前会頭)、米田北海道大学水産学部長、坂本㈱西友常務取締役の五氏をパネラーとして、時代の変化のなかで、地域における課題や、その方向づけについて、活発な意見が交換されました。

このシンポジウムの開催は、本年決定をみた当地の第二期計画の推進に、大きな弾みとなるものと期待されております。



事務局日誌

5月

* 正副会頭会議

- 7(水) 第14回正副会頭会議
- 26(火) 第15回正副会頭会議

* 会議(道商連)

- 11(月) 第148回全道商工会議所専務理事事務局長会議

* 会議(日商)

- 21(木) 平成4年度中小企業景況調査担当者会議
- 〃 小企業等経営改善資金融資制度に係る幹事商工会議所会議

* 審査会

- 13(水) 小企業等経営改善資金審査会

* 諸会議

- 2(水) 函館市国際交流資金運営委員会
- 〃 第2期テクノポリス函館開発計画に伴う民間基金依頼額についての打合せ
- 6(水) 北海道新幹線建設促進期成会懇談会
- 7(木) 函館圏企業誘致推進協議会平成4年度第1回幹事会
- 〃 四共済連絡会議
- 〃 平成3年度共済事業推進功労者表彰式
- 8(金) 北海道新幹線建設促進道南地方期成会理事会
- 〃 平成4年度函館港湾振興会第1回役員会
- 〃 平成4年度函館港湾振興会総会
- 〃 函館卸商連盟定時総会、懇親会
- 9(土) ㈱テクノポリス函館技術振興協会会計監査
- 11(月) 札幌丘珠空港整備促進協議会設立総会及び陳情
- 〃 北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会総会
- 〃 北海道新幹線建設促進道南地方期成会総会
- 〃 第1回函館空港運営推進委員会
- 12(火) 渡島地方技能尊重運動推進協議会定時総会
- 13(水) 婦人会広報委員会
- 15(金) 函館圏企業誘致推進協議会平成4年度総会
- 〃 函館中国経済促進協会平成4年度総会
- 16(土) 自由民主党函館支部第38回定期大会
- 17(日) 親睦友会函館支部連合会定期総会、懇親会
- 18(月) 北海道新幹線建設促進期成会平成4年度第1回幹事会
- 19(火) 函館信用金庫第69期総代会、懇親会
- 〃 ㈱函館観光協会平成4年度第1回理事会
- 20(水) 函館地区産業保険活動推進協議会
- 〃 湯川商店街振興組合第12期通常総会、懇親会
- 21(木) ㈱テクノポリス函館技術振興協会平成4年度第1回理事会
- 〃 函館税務署管内経営指導員研修会
- 〃 函館機械金属造船工業協同組合連合会第16期通常総会、懇親会
- 〃 平成4年度函館市民憲章推進協議会理事会、総会
- 22(金) 婦人会社会研修委員会
- 〃 婦人会親睦委員会
- 〃 第5回函館アクアコミュニティ構想協議会

- 22(金) テクノポリス函館地域推進協議会役員会、総会
- 〃 北海道新幹線建設促進期成会平成4年度第2回幹事会
- 25(月) 函館空港整備促進連絡協議会
- 〃 函館市社会福祉懇話会、役員会
- 〃 函館観光協会平成4年度通常総会
- 26(火) 函館市自衛隊協力会平成4年度総会、防衛講話
- 〃 新都市五稜郭協議会平成4年度例会、懇親会
- 〃 函館日ソ親善協会講演会「ロシア極東地域の現状と今後について」
- 27(水) 婦人会5月例会
- 〃 月刊経済界、会頭インタビュー記事取材
- 〃 管理職会議
- 〃 五稜郭商店街振興組合平成4年度通常総会、懇親会
- 28(木) 函館郵便利用者の会役員会、定期総会
- 28(木)~29(金) 第7回全国テクノポリスシンポジウム
- 〃 全国テクノポリスパネル展・北海道テクノネットワーク圏域企業ハイテク展・交流会・基調講演・パネルドィスカッション
- 29(金) 郷土芸能函館巴太鼓振興会役員会、総会
- 〃 国立函館大学誘致促進期成会理事会、総会
- 〃 函館物産協会平成4年度定時総会、懇親会
- 〃 物産館専門店会通常総会、懇親会
- 〃 サンタ・マリア号イベント実行委員会
- * 講習・催物
- 1(金)・8(金)・12(金)・15(金) } 簿記実務講座
- 19(火)・22(金)・26(火)・29(金) }
- 7(水) ロシア連邦極東地域経済セミナー(主催、北海道拓殖銀行)
- 20(水) 発明相談
- 21(木) セミナー「OA時代のビジネス文書実務講座」
- 29(金) 法律相談
- * 刊行物 所報「ともえ」5月号 No130
- * 相談・診断
- 金融 111 税務 24 経理 7 経営 24 労働 0
- 取引 0 その他 1 合計 170
- * 貸室 8
- * 文書 受信 201 発信 22
- * 検定試験
- 10(日) ワープロ4級検定試験
- 16(土) ワープロ2級検定試験
- * 陳情・要望
- 11(月) 丘珠空港の整備促進に関する陳情
- 21(火) 自由民主党北海道支部連合会平成4年度移政調会
- * 慶弔・その他
- 9(土) 第6回国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン大会
- 10(日) 箱館五稜郭祭記念式典
- 12(火) 第1回会津の物産と観光展「行表敬訪問
- 13(水) 第1回会津の物産と観光展オープニングテープカット
- 13(水)~15(金) 函館市社会福祉懇話会視察
- 14(木) 第13回植樹祭式典
- 15(金) 中華人民共和国駐札幌領事張惠良氏表敬訪問
- 16(土)~17(日) 箱館五稜郭祭維新パレード
- 20(水) 函館市中心商店街振興組合創立20周年記念祝賀会
- 21(木) フラノエクスプレス市民ツアー「行表敬訪問
- 〃 フラノエクスプレス市民ツアー「ふらの・ほこだて、市民交流の夕べ」
- 25(月) 轄西武北海道取締役社長川瀬祝男氏表敬訪問
- 26(火)~30(土) 議員会視察旅行(中国)
- 29(金) オールトヨタモーターショー in 函館レセプション

(5) 農・漁業

水稻等の農作業、生育状況は順調なもの、春野菜は出荷が遅れ気味の本州産との競合から価格は弱含みに推移。

近海鱒漁は、水揚量はますますながら魚価安のため、低調のうちにほぼ終漁。

(6) 消費関連

4月中の市内大型小売店（10店）売上は、食料品が底固い動きを示したものの、紳士服等衣料品をはじめ、身回り品、雑貨、家庭用品が低調に推移したため、平成2年3月以来の前年割れとなった。また、耐久消費財をみると、自動車販売は、小型・大衆車の不振から乗用車登録台数が12か月連続して前年を下回った（前年比6.3%のマイナス）ほか、家電販売も主力AV商品の伸び悩みから、量販店筋を中心に依然盛上りに欠ける展開。この間、観光・レジャー面をみると、各観光・宿泊施設では、まずまずの入込みをみている先が多いものの、ゴールデンウィーク期間中は、天候や曜日構成に恵まれず、行楽客の出足は前年に比べ低調裡に推移した。

3. 金融事情(4月中)

実質預金は、法人預金が引続き不冴え裡に推移したものの、年金流入により個人預金がまた交付金流入により公金預金が、それぞれ増加したことから月中34億円増と前年の47億円減とは様変わり増加となった。一方、貸出しは、設備需資が依然盛上りを欠き、期末決済資金の回収から月中168億円の減少となったが、減少幅は休日要因の剥落がみられた前年の304億円減を大きく下回った。

この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、利下げの浸透を映じ、月中0.158%と引続き低下した。

銀行券は、曜日構成から支払が前年を下回ったため、月中19億円の還収超と前年の発行超19億円とは様変わりの動きとなった。

財政収支は、資金運用部貸付の減少にも拘らず、一部納付先移管による租税の受入減少が大きく、月中43億円の払超となった。

外国人労働者の適正な雇入れと、 不法就労の防止に理解と協力を



外国人労働者の雇入れについては、社会的影響等から、専門的・技術的な職種に限られており、いわゆる単純労働者として、外国人を雇入れることはできません。

外国人労働者の適正な雇入れと、不法就労の防止にご理解とご協力をお願いします。

お問い合わせは

ハローワーク函館（函館公共職業安定所）

☎26-0735、内線444又は445へ



1. 概況

最近の管内経済動向をみると、公共投資は順調な発注が行われているが、住宅建築の不振、一部製造業の生産調整継続や受注鈍化に加え、百貨店売上等の個人消費関連でも驍りが窺われるなど、全体として管内の経済動向は引続き減速過程を辿っている。

すなわち、製造業では、造船が新造船建造を主体に高操業を続行しているほか、水産加工、乳製品、一般機械も総じてみれば足許高めの生産を維持しているが、売上や受注面で鈍化の兆しが窺われており、さらに電子部品は国内向け需要の低迷から、また木材・木製品も住宅建築の不振から、いずれも生産抑制姿勢を継続している。一方、非製造業では、観光関連筋が前年並みの集客を維持しているものの、建設筋ではマンション等民間工事の不振から、建築を主体とする先を中心に仕事量の減少が続いている。また、乗用車等耐久消費財も前年を下回る販売が続いているほか、大型小売店売上は衣料品等の不振を主因に、ここにきて徐々に鈍化しつつある。

こうしたなか、管内企業の今年度設備投資動向を窺うと、サービス業等で引続き積極的な投資意欲が窺われるものの、全体としては景気減速が続くなか、新たな能力増強等には依然慎重なスタンスでのぞむ先が多い。

4月の金融動向をみると、預金は、法人預金が引続き不冴え裡に推移したものの、年金

・交付金流入等から増加、一方、貸出しは、設備需資を中心に依然盛上りを欠いた。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、短期プライムレートの低下等を映じ短期・長期ともに引続き低下した。

2. 主要業種別動向

(1) 機械

電子部品（半導体、水晶振動子）は、依然生産調整を継続。もともと半導体では、このところの米国景気回復期待や国内メーカーの在庫調整一服から、荷動きに動意がみられ始めているほか、水晶振動子も先行きの増産を睨み臨時工募集を再開している。一方、一般機械では、豊富な受注残を有する合板、製缶関連を中心に足許高めの生産体制を維持しているものの、水産加工関連等の受注は不冴え裡に推移。また造船は、新造船を主体に高操業を続けている。

(2) 食料品

水産加工は、総じてみれば高操業を維持しているものの、乾燥珍味メーカーを中心に此許受注が鈍化する先が増加。乳製品は、練乳主体に高めの生産水準ながら飲用乳の売れ行きが前年を下回っているため、在庫が徐々に増えつつある。また、飼料・魚油も、前年を下回る出荷が続いている。

(3) その他製造業

段ボールは、春野菜や水産物向けを中心に前年を上回る生産・出荷となっている。

一方、セメントは、国内需要の伸び悩みを映じ、これまでの高水準の生産・出荷が一段落。また、合板は、住宅着工停滞による需要低迷を受け抑制的な生産姿勢を継続しており、漁網の受注も引続き減少傾向を辿っている。

(4) 建設関連

市内新設住宅着工戸数は、分譲マンション等の落込みから16か月連続して前年を下回った。こうしたなか、建設筋の仕事繰りは、公共工事の本格発注により繁忙の度を増しているが、民間建築工事受注は依然低調に推移している。

【卸売業】

今期比4.3、前年同期比△23.4と、前年同期比ではD Iがマイナスを示し、荷動きは依然として鈍化が続いている。

細業種でみると、燃料業と一般機械器具業では今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し、減額を予想している。

【小売業】

今期比△14.3、前年同期比△15.7と、いずれもD Iがマイナスを示している。

細業種でみても、各種商品販売業が横ばい状態である以外はすべての業種が今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し、業績悪化を予想している。

【サービス業】

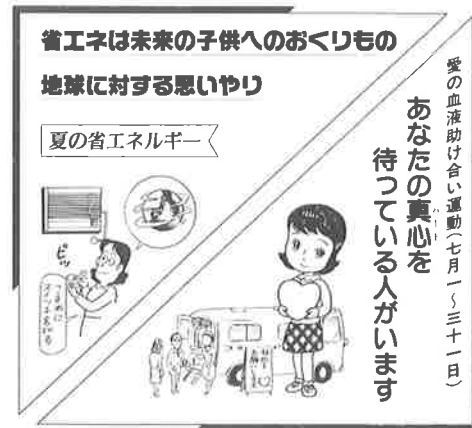
今期比33.3、前年同期比22.2と、いずれもD Iがプラスを示し、増額基調が見込まれる。

細業種でみても、自動車整備業が横ばい状態である以外はすべての業種が好転を予想しており、特にホテル・旅館業と娯楽業では春の行楽期を迎えて順調な観光客入込みが期待される。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業5.2%に対し、「悪化」とみる企業11.6%で、D Iは△6.4とマイナスを示しているが、「変わらない」とする企業が83.2%を占め、ほぼ今期並に推移される見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、建設業 △5.0、製造業△2.4、小売業△20.5を示しているが、卸売業とサービス業はいずれも0.0を示し、各業種とも7割以上の企業が「変わらない」と回答している。



函館市内、第一種大規模小売店舗売上高<10店>

平成4年4月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,174,391	77.7	98.4
身回り品	713,880	79.3	98.6
雑貨	841,473	84.1	98.3
家庭用品	824,742	94.8	99.6
食料品	1,885,871	90.4	103.0
食堂・喫茶	164,157	85.1	99.6
サービス	112,654	78.0	94.0
その他	532,418	97.1	101.9
総計	8,249,586	83.9	99.7

<10店>棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、
テオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店

統計資料

業種では25.3%とトップを占め、次いで「人件費の増加」が15.7%となっている。

次に問題点を業種別にみると、

建設業では「受注の不振」・「純利益の減少」がそれぞれ22.7%、「工事価格の値下がり」が18.4%、「求人難」・「景気の見通し難」がそれぞれ13.6%。

製造業では「売上・受注の不振」24.1%、「人件費等経費の増加」・「純利益の減少」がそれぞれ21.7%、「求人難」15.2%。

卸売業では「売上・受注の不振」26.0%、「求人難・人材難」17.4%、「純利益の減少」15.2%、「販売価格の値下がり」・「流通経費の増加」がそれぞれ10.9%。

小売業では「売上の不振」30.6%、「客足の減少」16.3%、「人件費の増加」・「求人難・人材難」14.3%。

サービス業では「人件費の増加」40.0%、「売上の不振」・「営業経費の増加」・「同業者の競合」がそれぞれ13.3%等となっている。

今 期：4年1月～3月実績

前年同期：3年4月～6月実績

来期(4月～6月)の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」するとみる企業20.1%に対し、「横ばい」企業58.7%、「悪化」するとみる企業21.2%でD Iは△1.1と、ほぼ横ばい状態で推移しているが、前年同期比で見ると、「好転」するとみる企業10.4%に対し、「悪化」するとみる企業29.0%で、D Iは△18.6とマイナスを示し、悪化が予想される。

業種別にD Iをみると、今期比では建設業△13.7、製造業6.6、卸売業2.0、小売業△16.3、サービス業27.8と、業種間に格差がみられるが、前年同期比で見ると、サービス業(11.1)以外はすべての業種がマイナスを示している。

このように来期の業況見通しについては、春の行楽期を迎えて観光関連でやや明るさがみられるほか、生産活動も若干の回復が期待されるが、景気の減速とともに個人消費を中心として依然慎重な姿勢が示されている。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

	(D.I) 好転	横ばい	悪化
全業種 (-18.6)	10.4	60.6	29.0
建設業 (-41.0)	4.5	50.0	45.5
製造業 (-18.1)	11.4	59.1	29.5
卸売業 (-20.4)	8.2	63.2	28.6
小売業 (-18.0)	10.0	62.0	28.0
サービス業 (11.1)	22.2	66.7	11.1

2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種で見ると、今期に比べ「増加」するとみる企業23.0%に対し、「横ばい」企業55.1%、「減少」するとみる企業21.9%で、D Iは1.1とほぼ横ばい状態を示し、前年同期比では「増加」企業13.4%に対し、「減少」企業26.3%で、D Iは△12.9とマイナスを示し、業績悪化が予想される。

図-6 来期の売上見通し (対前年同期比)

	(D.I) 増加	横ばい	減少
全業種 (-12.9)	13.4	60.3	26.3
建設業 (-36.8)	5.3	52.6	42.1
製造業 (-2.3)	15.9	65.9	18.2
卸売業 (-23.4)	12.8	51.0	36.2
小売業 (-15.7)	9.8	64.7	25.5
サービス業 (22.2)	27.8	66.6	5.6

次に来期の売上見通しを業種別のD Iで見ると、

【建設業】

今期比△20.0、前年同期比△36.8と、いずれもD Iがマイナスを示している。

細業種で見ても、すべての業種が減額を予想し、警戒感を強めている。

【製造業】

今期比11.3、前年同期比△2.3と、前期比ではD Iがプラスを示し、好転が見込まれる。

細業種で見ると、漁網業と木製品・家具業では厳しい見方となっているが、飲食料品業と金属・一般機械器具業では今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、生産活動は活発化が見込まれる。

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額についてのD Iは、前期比△31.9、前年同期比△41.0と、いずれもマイナスを示し、業績は厳しい状態が続いている。

細業種でも、すべての業種が減額基調で推移している。

このように今期の建設業界は、民間建築需要の鈍化が依然続いているため、建築を主体とする事業所ではさらに仕事量の減少傾向が顕著になっている。

【製造業】

今期の生産額についてのD Iは、前期比△40.0、前年同期比△9.1と、いずれもマイナスを示し、生産活動は悪化に転じている。

細業種でも、総じて横ばいまたは減額基調にあり、特に水産加工業と漁網業では前期比、前年同期比ともにマイナスを示している。

【卸売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比△36.8、前年同期比△34.8を示し、いずれも過半数の企業が「減少」と回答している。

細業種でも、総じて悪化基調で推移しており、特に燃料業と建築材料業では前期比、前年同期比ともに大幅なマイナスを示し、業績悪化を訴えている。

【小売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比△22.9、前年同期比△18.7と、いずれもマイナスを示し、個人消費の停滞を窺わせる。

細業種でも、特に各種商品販売業、衣服・身回り品販売業、飲食料品販売業では前期比において「増加」と回答する企業もなく、総じて業績悪化を訴える業種が多くなっている。

【サービス業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比△5.6、前年同期比44.5を示し、前年同期比では過半数の企業が「増加」と回答し、好転している。

細業種でも、ホテル・旅館業、娯楽業がオフシーズン等の影響から前期比で厳しい

見方をしているが、前年同期比ではすべての業種がプラスを示し、増額している。

図-3 今期の純利益（対前年同期比）

	(D.I.)	増加	横ばい	減少
全業種 (-29.4)	15.0	40.6		44.4
建設業 (-28.6)	9.5	52.4		38.1
製造業 (-24.0)	13.0	50.0		37.0
卸売業 (-33.3)	16.7	33.3		50.0
小売業 (-41.6)	14.6	29.2		56.2
サービス業 (0.0)	23.5	53.0		23.5

3. 純利益について

今期の純利益を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業11.4%に対し、「横ばい」企業40.0%、「減少」している企業48.6%でD Iは△37.2、また前年同期比でも「減少」企業44.4%が「増加」企業15.0%を上回ってD Iは△29.4と、いずれもマイナスを示し、採算面でも悪化基調で推移している。

業種別にみても、すべての業種が悪化傾向を示している。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種で見ると、前期に比べ「好転」した企業6.1%に対し、「悪化」した企業14.5%で、D Iは△8.4とマイナスを示しているが、「変わらない」とする企業が79.4%を占め、ほぼ前期並に推移したといえる。

業種別にみても、各業種とも65%以上の企業が「変わらない」と回答している。

図-4 今期の資金繰り（対前期比）

	(D.I.)	好転	変わらない	悪化
全業種 (-8.4)	6.1	79.4		14.5
建設業 (-10.0)	0.0	90.0		10.0
製造業 (-4.6)	4.5	86.4		9.1
卸売業 (-2.1)	8.3	81.3		10.4
小売業 (-14.3)	10.2	65.3		24.5
サービス業 (-16.7)	0.0	83.3		16.7

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、「売上・受注の不振」をあげる企業が全

函館地域における 景気動向

〈平成3年度・第4四半期〉

平成3年度・第4四半期（平成4年1月～3月）の函館地域における景気動向調査（本所調査）結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	217社	67.8%
建設業	40	25	62.5
製造業	80	57	71.3
卸売業	70	54	77.1
小売業	90	59	65.6
サービス業	40	22	55.0

（注）本調査結果の中のD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

前期：3年10月～12月実績

前年同期：3年1月～3月実績

今期(1月～3月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業12.2%に対し、「横ばい」企業48.6%、「悪化」している企業39.2%で、D Iは△27.0とマイナスを示し、業況の悪化がみられる。

業種別のD Iで見ると、建設業△22.7、製造業△39.1、卸売業△31.3、小売業△20.9、サービス業△5.9と、いずれもマイナスを示している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、

全業種では「好転」企業16.2%に対し、「横ばい」企業46.9%、「悪化」企業36.9%で、D Iは△20.7を示し、前年より悪化している。

これを業種別のD Iで見ると、サービス業（22.2）以外はすべての業種がマイナスを示しており、各業種とも3割以上の企業が「悪化」を訴えている。

このように今期の業況を前年同期比で見ると、生産活動や個人消費が低調に推移しており、建築関係も民間建築需要の停滞による仕事量の落込みがみられるほか、さらに季節的要因等も重なったことから、総じて悪化基調で推移している

図-1 今期の業況（対前年同期比）

業種	(D.I) 好転 横ばい 悪化		
	好転	横ばい	悪化
全業種 (-20.7)	16.2	46.9	36.9
建設業 (-33.3)	14.3	38.1	47.6
製造業 (-11.1)	20.0	48.9	31.1
卸売業 (-28.3)	15.2	41.3	43.5
小売業 (-32.6)	8.2	51.0	40.8
サービス業 (22.2)	33.3	55.6	11.1

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業12.6%に対し、「横ばい」企業44.5%、「減少」している企業42.9%で、D Iは△30.3とマイナスを示し、減額基調で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業19.7%に対し、「横ばい」企業43.8%、「減少」企業36.5%で、D Iは△16.8とマイナスを示し、前年に比べ業績は悪化している。

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

業種	(D.I) 増加 横ばい 減少		
	増加	横ばい	減少
全業種 (-16.8)	19.7	43.8	36.5
建設業 (-41.0)	4.5	50.0	45.5
製造業 (-9.1)	15.9	59.1	25.0
卸売業 (-34.8)	17.4	30.4	52.2
小売業 (-18.7)	18.8	43.7	37.5
サービス業 (44.5)	55.6	33.3	11.1